

第1回みんなで朝ごはん事業検討会 会議録

1 日 時

令和元年6月3日(月)19時00分～21時10分

2 会 場

磐田市役所本庁舎4階 大会議室

3 出席者

検討会メンバー14名

村上 勇夫(磐田市自治会連合会 会長)
三浦 靖男(向笠地域づくり協議会 会長)
伊藤 富次夫(豊浜地域づくり協議会 会長)
吉添 繁雄(南交流センター センター長)
大杉 達也(豊岡中央交流センター センター長)
山下 重仁(磐田市社会福祉協議会 事務局長)
吉野 武夫(中泉地区地域づくり協議会福祉部会 部会長)
三上 和代(南御厨地区社会福祉協議会 会長)
松井 文孝(磐田北小学校 校長)
清水 孝彦(竜洋西小学校 校長)
萩田 鎮哉(磐田中部小学校 PTA 会長)
堀内 大義(竜洋東小学校 PTA 会長)
大橋 弘和(青城小学校 PTA 会長)
大畑 邦子(豊岡北小学校 PTA 会長)

市長

事務局7名

鈴木 雅樹(秘書政策課長)
伊藤 豪紀(秘書政策課 部付主査兼政策行革推進グループ長)
松下 公彦(秘書政策課政策行革推進グループ 主任)
鈴木 基輝(秘書政策課政策行革推進グループ 主任)
宮本 典寿(地域づくり応援課 部付主幹兼課長補佐兼地域支援グループ長)
岡田 佐栄子(こども未来課 部付主査兼こども支援グループ長)
松井 信治(学校教育課 主幹兼指導グループ長)

4 内 容

(1) 開会

(2) 市長あいさつ(要約)

最近、信じられない事件事故が多発している。この2～3年に大きく変化していることを感じる。子どもの家庭環境によっていろんな差がでてきている。行政ができることは限られているが、子どもたちが一人でも多くの人と出会う機会をつくることで、子どもたちの成長の一助になればと考えている。

率直な意見交換の時間としたい。

(3) 自己紹介

(検討会メンバー及び事務局の自己紹介)

(4) 磐田市の朝ごはんの現状

事務局

(資料1 資料2 資料3 を説明。)

(5) 市長との意見交換

(大阪市立西淡路小学校の「朝ごはんやさん」の様子を放送したテレビ番組を視聴。)

市長

- 昨年、東淀川区の「朝ごはんやさん」を視察した。なぜ学校で行うことができたのか、マンパワーをどうしているのかを知りたかった。
- 視察後、行政主導で実施することは可能だったがやらなかった。地域の皆さんと一緒に考えてほしかった。
- 市長に就任した 10 年前はこのようなことは考えていなかった。以前は家庭でやってきたことがあたりまえでなくなっている。
- 親は子どもが勉強さえしていれば喜んでいる。子供部屋に電子レンジや冷蔵庫があり、子どもたちはSNSで自分の世界を持っている。親でさえ子供が何をやっているのか把握できないような家庭もある。
- 磐田市では製造業で3交代勤務の会社が増えており、女性も組み込まれている。両親共にそのような勤務の家庭では、昔であれば毎朝必ずいた両親が、不在のまま登校する家庭もある。
- 磐田市でもDVや育児放棄が増えている。全国的にも同様の傾向。
- 制服業者から聞いた話では、毎年 10～15%が制服を新調していない。兄弟姉妹や先輩から譲り受けることを考慮しても、経済的な問題から新調しない家庭が多いことがわ

- かった。中学生スタートアップ事業で3万円の制服補助を開始したが、本当の狙いは一緒に添えた手書きメッセージ(心が折れそうなときに支えになる応援の言葉)にある。
- 私は子どもの頃大変貧しかったが、踏ん張ることができたのは、周りの支えがあったから。人から助けられお世話になると、受けた恩を返そうとするもの。磐田市の子どもたちに、苦しい時に支えてくれる出合いや機会を与えたい。
 - 時代の変化は激しく、先生方は大変苦労している。教育は学校任せではいけない。地域づくりは一部の人だけでやるものではなく、特定の人だけに負荷をかけることもいけない。みんなに投げかけて、ほんの少しずつ意識し、無理なく協力できる範囲で、楽しみながら行えば良い。
 - みんなで朝ごはん事業は、実施することが前提だとか無理して見切り発車は考えていない。無理のない中でスタートを切りたい。みなさんで一度考えていただきたい。

メンバー

- 大阪で開催された地域福祉の全国サミットに参加した。子ども食堂が多くあるが、食べることが主ではなく、つながりや支えあいを非常に強く感じた。
- 見守り活動を行っているが、子どもたちが会話に飢えていると感じる。
- 二之宮の子ども食堂では、貧困対策ではなく、来ることができる人が親子でもよいからということで呼びかけている。多くの方が来てくれるが、来るととても楽しそうで、こういった雰囲気のものこれから必要ではないかと考えている。

メンバー

- 地域の自発的なスタートなら継続するが、行政主導で大丈夫か懸念する。
- 貧困対策ではないと理解している。子どもたちの「一体感」「人を想いやる気持ち」「仲間づくり」がキーワードだと理解したが、朝ごはんの取組みにどうつながるのか。
- 担い手が続けることができる方法を考える必要がある。

メンバー

- 大阪の「朝ごはんやさん」は、中心の表西さんが様々な活動のなかで出会った人たちに直接声をかけて運営している。3年やって一人も抜けていない。

メンバー

- いま頑張ってる人や役を担っている人は、色々な場所で活躍している。だが、下が続いていない。朝ごはんに限った話ではないし、どの団体の活動もそうだが、どのように継続していくのが課題。

市長

- ジュビロの一斉観戦では、最初に一斉観戦を経験した子どもが大学生になって応援を教える側に回っている。全部が整ったスキームでなくとも、人数が少なくてもそのような

子が出てきていることは1つの効果といえる。

○子どもも地域も自分の小学校区のことを大事にしている。交流センターで週末にラジオ体操をやっている。健康づくりが主目的ではなく、大人と子どもの交流が狙い。マンパワーの問題はあるが、「やれることは手伝うよ」という方もいるかもしれない。

メンバー

○配食サービスをしている。年度替わりにボランティアを辞めたいという方がいるが、代わりの方を探すことが大変で、事業を続けていくことが非常に難しい。何とか他の方を勧誘して続けているが、やってみると楽しんでやっていただけている。

メンバー

○月2回あいさつ運動で校門に立っている。参観会などで学校に出向くと子どもたちから声をかけてくれて非常に嬉しい。子どもたちと繋がる取組みをしたい。

○学校運営協議会でもボランティアがなかなか集まらないと言われている。

○どの会議に出ても顔ぶれが一緒。もっといろんな方に出て欲しい。

市長

○地域には担ってくれる人が潜んでいると思う。

メンバー

○消防団の募集をしても入ってくれる人は少ない。これまで接点がなかった人にも声をかけていくと、必ず何人かは積極的に参加してくれる。市長が言うように地域に潜んでいる人は必ずいて、その人たちをどう見つけて参加してもらうのが課題。

メンバー

○朝ごはんを食べてくる子は、授業中の集中力、元気、活力があると学校の栄養教諭に聞いている。

○貧困対策の事業であれば、親としては子どもの参加を見合わせてしまうが、平等ならば参加させてもよいと思う。

○継続性を持たせるためには、ボランティアと子どもの集め方が課題。

メンバー

○豊岡地区は地域の協力が熱いと感じている。3年前から学校で授業の補助や環境美化等を行うサポートメンバーを集めている。徐々に拡大して現在は60名近くいる。豊岡地区では声をかけたらやってくれる人がいると思う。

メンバー

○これまでの経験上、朝ごはんはもちろん、給食頼りで生活している子にも出会ってきた。

このような取り組みができると良いという思いはある。

- マンパワーは問題。地域の方に協力いただいて学校経営しているが、「やれるときに、やれることをやってくださればいいんです。」といってもサポーターは増えていかない。
- 本当に手を差し伸べたいのは、家庭の問題で食べてくることができない子。大阪市のように全員に声かけをすることで、そのような子が埋もれるので、デメリットとして表れることは少なくなる。

メンバー

- 学校の現場は働き方改革が進んできている。教員の負担が増えないような方法が必要。

メンバー

- 朝ごはんを食べていないことや、社会的な背景で子供がおかれている環境に様々なことが起きている。そこにスポットを当てることも良いが、他にも様々な問題がおきている。
- 7月に、1日貸館をやめ、放課後児童クラブの子どものために貸し出す。夏休みに指導員が1日預かるのはしんどいという現状がある。現実的に困っている人がいる。困っている人に手を差し伸べる、少しずつやっていければという思いでいる。
- 困っていることを拾いあげやってみると、1つだけでなくいろんなことができる。食べるだけでなく、他のことでも困っている人やニーズがあるのではないか。
- ボランティアはなかなか集まらない。個人に直接声をかけていく事で集めていくしかない。それでも声をかければやってくれる人もいる。

メンバー

- 磐田市の現状を数字として初めて認識した。数字をどのように地域に示していくのかは課題だと感じる。

メンバー

- 問題があることを再認識した。
- ボランティアの集め方は心配。
- 磐田市の現状の掘り下げは必要。

メンバー

- 全ての子どもに朝食をとという願いは誰も反対しない。
- 無理なく実現できるか、持続できるかは課題。
- かつて、5年間限定として通学合宿を立ち上げたが、灯を消すのはもったいないと現在も形を変えながら続けている地区もある。可能な範囲で知恵を出しながら研究してみればよいのではないか。

メンバー

- 12 年間見守り活動をしているが、80 歳の方が生きがいにしていることや、子どもに合わせて生活できているから感謝していると聞いている。こういうことを、話すだけでボランティアは集まると思う。年寄り生きがいを求めている。
- 学校のため、子どもたちのためなら、と手伝ってくれる人は必ずいる。
- 難しく考えず大義名分を振りかざさず、子どもと仲良くなることを前面に出せば、必ず応募者がある。
- スタートしてみると生きがいを感じて集まってくる。頭で考えずにスタートしてみてもいいのではないかな

市長

- 関係者が集まって、一緒に考えていただくことがスタート。
- 22 校一律に一斉スタートとは考えていない。
- 学校を応援するような地域風土を作りたいと思う。
- 無理は続かない。自分達ができる事を少しでも、という思いで挑戦していただけたところはやっていただければありがたい。
- 人は理屈ではなく心で動く。温かさが少しでも伝わることで子どもたちの成長の手助けになれば。
- これからの時代を背負うみなさんにいろんなことを考えていただいて、時代をつないでいく役割を担っていただきたいと思っている。
- 言葉選ばずに率直に話し合っていたきたい。

(6) 先進地視察について

事務局

- (資料4 資料5を説明。)
- (視察参加者の調整。)

(7) 今後の検討会の進め方

事務局

- (次回以降の検討会の進め方を説明。)

(8) 閉会

以上